

4. 成果の意義

- 江津市内では、桜江町で室町時代に鋳製鉄が行われたことが確認されていましたが、今回松川町において室町時代に鉄製品を生産していることが明らかになりました。
- 調査区内では一般的な集落の遺構・遺物は確認されていません。江の川の水運を意識した立地で鍛冶が行われたと考えられます。
- 松川町には、江の川流域でも屈指の規模をもつ松山城跡や、清泰寺に伝わる県指定文化財の阿弥陀如来像、県内でも希少な南北朝時代の七重層塔があります。今回確認した中世の遺構や遺物は、これらと合わせてこの地域の歴史を紐解く資料と言えます。

関 連 年 表

時代	年代	全国的主要出来事	江津市の歴史 ●森原下ノ原遺跡の様子
旧石器時代	約35,000年前	日本で人間の活動が確認される	
	約15,000年前	土器が作られるようになる	
縄文時代	約5,000年前	大型環濠集落(青森県三内丸山遺跡)	波子町に集落が営まれる(大平山遺跡群) ●森原に人が住み始める
	紀元前600年頃	九州北部で米作りがはじまり、全国に広がる 遠賀川式土器が西日本を中心に広がる	●ムラが大きくなり土器が作られる
弥生時代	紀元前300年頃	九州北部に青銅器が伝わる	
	50年頃	日本各地にクニが作られる 大型四隅突出墓(島根県西谷墳墓群)	●九州系の土器が使われる
	250年頃	大型前方後円墳(奈良県箸墓古墳)	●古墳時代に土器が大量に廃棄される
古墳時代	400年頃	日本最大の古墳(大阪府仁徳天皇陵古墳)	江津市各地で集落が営まれる
	500年頃	横穴式石室が普及する	江津市西部で横穴式石室が多数造られる(高野山古墳群)
	650年頃	仏教が伝わる	●祭祀が行われる
飛鳥時代	710年	奈良県に都がおかれる(奈良県平城京)	二宮町で奈良三彩が使われる(半田浜遺跡)
	794年	京都府に都がおかれる(京都府平安京)	古代山陰道の駅が設置される
奈良時代	1185年	堀ノ浦の戦いで平氏が滅亡する	各地に集落が営まれる(恵良遺跡)
	1192年	源頼朝が征夷大将軍になる	
鎌倉時代	1233年		御神本氏一族の兼広が福屋氏を名乗る 中世山城(有温泉町本明城)
	1333年	鎌倉幕府が滅亡する	
室町時代	1336年	南北朝の内乱が始まる	福屋氏、都野氏は三隅氏や周布氏とともに 南朝方として戦う
	1338年	足利尊氏が征夷大将軍となり、室町幕府を開く	各地に集落が営まれる(二宮C遺跡)
	1392年	南北朝の合一	七重層塔(松川町)
	1467年	応仁の乱が起こり、東西両軍が争う	●礎石柱建物が建てられ鉄製品が作られる 雪舟による庭園改築(和木町小川家庭園)
	1543年	ポルトガル人が種子島に漂着し、鉄砲を伝える	
戦国時代	1551年	周防の戦国大名大内義隆滅亡	福屋氏が毛利氏に服属
	1555年	厳島の合戦で毛利氏、陶氏を破る	松山城、本明城が落城し、福屋氏は滅亡する
	1573年	室町幕府が滅亡する	
	1582年	本能寺の変	
徳川時代	1590年	豊臣秀吉が全国を統一する	
	1600年	関ヶ原の戦い	
	1603年	徳川家康が江戸幕府をひらく	現在の江津市東部は石見銀山領となる
江戸時代			●鍛冶や耕作が行われる



●松川町の層塔(南北朝時代)
現在は七重だが九重になる可能性がある。花崗岩製

もりばらしも はら いせき 森原下ノ原遺跡 現地説明会資料

—室町時代の鍛冶工房跡の調査—

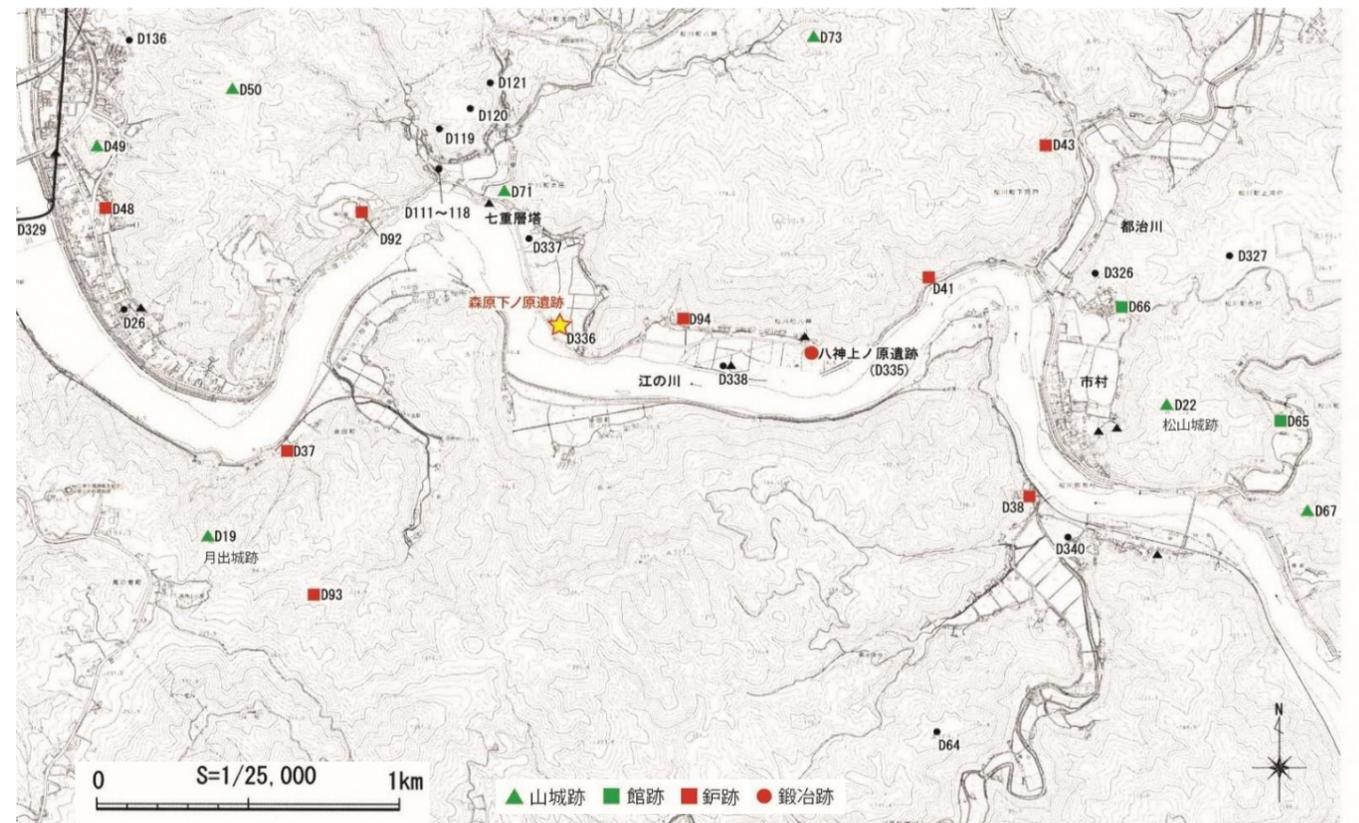
令和元年10月6日(日)
島根県埋蔵文化財調査センター

1. はじめに

島根県教育委員会では、国土交通省中国地方整備局からの委託を受けて、平成29年度から一級河川江の川直轄河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査を行っています。今回は、森原下ノ原遺跡の現地説明会を開催し、みなさまに調査成果をご覧いただきたいと思ひます。
なお、調査にあたってご理解、ご協力をいただきました地元の皆様や、国土交通省中国地方整備局 浜田河川国道事務所、江津市教育委員会を始めとする関係各機関の皆様方にあらためてお礼申し上げます。

2. 森原下ノ原遺跡の概要

森原下ノ原遺跡は、江津市松川町八神の江の川右岸の標高約8mの河岸段丘上に位置しています。周辺には千本崎城跡、松山城跡などの中世の城跡や、八神鉦跡や佃谷鉦跡などの近世・近代の鉦跡が存在します。平成30年度までに行われた試掘調査で、弥生時代前期(約2,500年前)から戦国時代(約500年前)の遺物が出土しました。
今年度は、河岸段丘北側の約2,400㎡を調査し、これまでに室町時代から江戸時代の遺構面(生活面)で、礎石建物跡、掘立柱建物跡、鍛冶炉跡、畑跡などの遺構を検出しています。



江津市教育委員会作成地図を一部改変

- | | | | | | |
|-------------|--------------|----------|---------|-----------|----------|
| 19 月出城跡 | 22 松山城跡 | 37 勝地鉦跡 | 38 恵口鉦跡 | 41 佃谷鉦跡 | 43 下河戸鉦跡 |
| 48 長田鉦跡 | 49 蟹ヶ迫城跡 | 50 大和田城跡 | 64 平山城跡 | 65 殿畑館跡 | 66 川上館跡 |
| 67 櫃城跡 | 71 千本崎城跡 | 73 雌雄城跡 | 92 桜谷鉦跡 | 93 椎の木谷鉦跡 | 94 八神鉦跡 |
| 337 森原神田川遺跡 | 338 八神上ノ原Ⅱ遺跡 | 340 田淵遺跡 | | | |

森原下ノ原遺跡と周辺の主な遺跡の位置

編集・発行
島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
〒690-0631 松江市打出町33
TEL.0852-36-8608
FAX.0852-36-8025
E-mail.maibun@pref.shimane.lg.jp
http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/

江の川発掘調査事務所
江津市渡津町
TEL 0855-52-7195
FAX 0855-52-7196

タローくん



3. 発掘調査の成果

見つかった鍛冶の跡

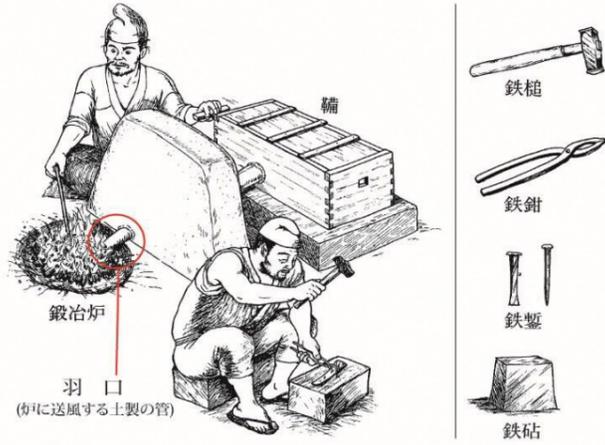
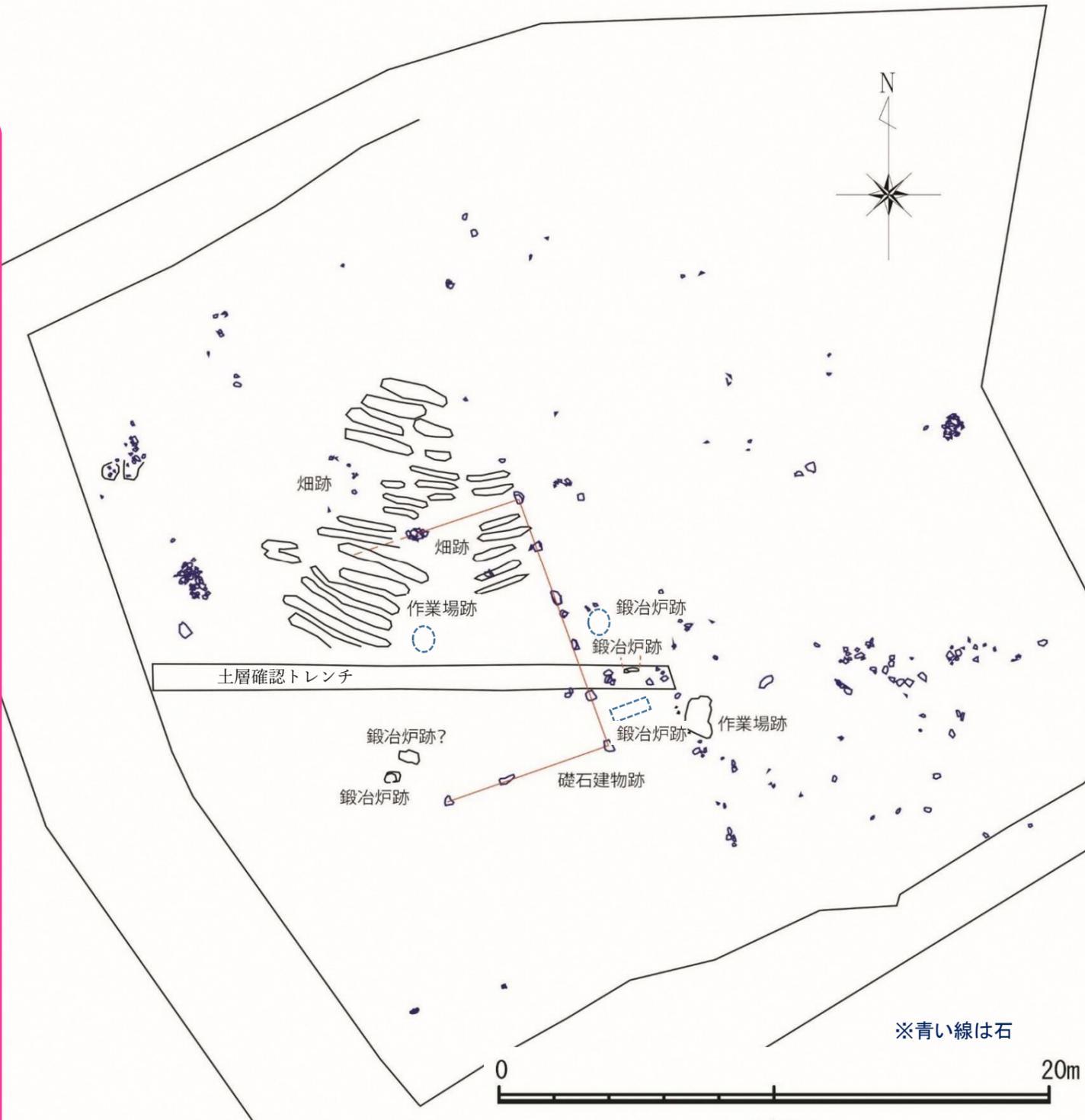


イラスト 竹井真知子 (潮見浩著『図解 技術の考古学』(改訂版) 有斐閣、2000年より)

鉦(たたら)で作られた鉄は大鍛冶場で鉄素材に加工し、各地に運ばれます。森原下ノ原遺跡では、室町時代の遺構面で、鉄素材を道具に加工した小鍛冶の跡が確認されました。そのほか江戸時代の遺構面でも鍛冶炉跡が見つかっています。



森原下ノ原遺跡1区 第3遺構面全体図

これまでの調査成果

- 江の川に面した標高6~7mの自然堤防上で、縄文時代中期前半(約5500年前)から江戸時代前期(約300年前)にかけての遺物を多数確認
- 江の川の氾濫によって運ばれた砂で埋没した複数の遺構面(生活面)を確認し、これまでに戦国時代から江戸時代の鍛冶炉跡や畑跡を調査
- 現在は室町時代の遺構面で礎石建物跡や鍛冶炉跡を調査中で、1400年代を中心とした陶磁器や古銭、300点以上の金属製品、150点以上の鍛冶関連遺物などが多数出土
- 室町時代の遺構面の下層には、縄文時代から古墳時代にかけての遺物が大量に出土する地層を確認しており、引き続き発掘調査を行う予定

これまでの調査の様子



● 森原下ノ原遺跡1区 全景(南東から)
写真上の林の奥が江の川です。調査区の西側には江の川の氾濫による砂が広く堆積しています



● 1区西側の土層断面(北西から)
白い帯は江の川の氾濫で運ばれた砂の層です



● 第1遺構面の畑跡(左)と第3遺構面の畑跡(右)
江の川の氾濫による砂で埋まっていました